

新編水滸畫傳

六編

六

清
875
56



神書佛書醫書國史
繪本 手遊
遠 21
875
巻 56

神書佛書醫書國史
繪本 手遊
手遊いふく法をい間
所 河内屋孫玄術

後後町三休橋西へ

河内屋孫玄術

新編水滸畫傳卷之五拾六

東武 高井蘭山翁 譯編

明治三十三年
十月十日
講求

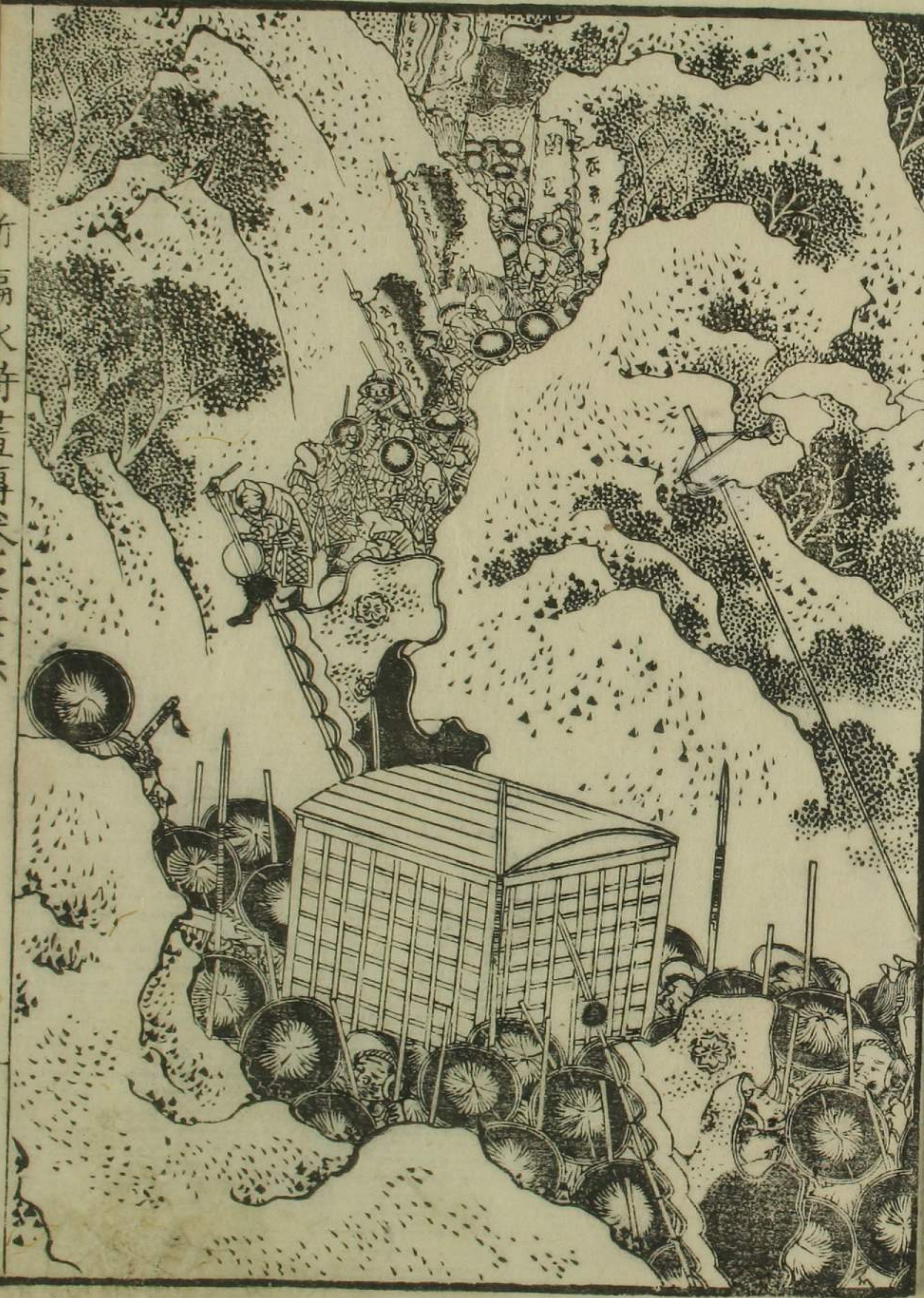
○関務水火の二將と隊也

諸も大の関務の宣賛郝思文を將と引み子の入ると候。おちれ
 後州一系一秘に後州も早近くと望むる。以時後州の太守の勅書
 吳蔡太師の文書と接へけり。おちれ。魏定玉お人の
 大将を招き。勅書の詔を授て。委細と候。一々小あねは事と候。云
 々。今天下に文武あると兼する名は多し。と云。は夜の付とて。あ
 人小作せ賜すと。張に廣太の面目とと大脱し。あざ人をと候。一。近日
 出陣すべしと。己に用意と備へ。おちれ。近村隣郷より。飛脚往く。馳
 あり。梁山泊の大將大刀関務教子の軍を引て。送参し。おちれ。

新編水滸畫傳卷之五拾六

ありぬと報しりれど。單魏あはれんとて。大少怒り。子速を率し。城介小歩を。軍已にお迎へ陣と對し。梁山泊の陣中。國勝當先。小出。後州の陣中より。單廷珪を。前面小一本の大旗と持し。む。旗の上より。銀字とて。聖水將軍單廷珪と云七字と書ぬ。又魏定國を。出陣し。一本の大旗と持し。む。旗の上より。銀字とて。神火將軍魏定國と云七字と書ぬ。國勝是と見ても。陣前小勅。先言死小呼て。云。五將軍別れて。よろ。若て消息と。あざりり。あ。恙。う。こ。碎と。ぬ。喝し。素。ま。ご。これと。忻。悦。を。單魏あはれ。以。言。て。あ。大。小。罵。り。國。勝。汝。已。に。盜。賊。小。賊。歟。上。ハ。胡。廷。の。恩。沢。小。背。さ。下。ハ。先。祖。の。名。目。と。辱。し。め。今日。又。自。ら。來。て。天子。の。玉。と。犯。さん。と。する。ハ。罪。い。ふ。く。九。族。と。亡。し。小。夷。わ。り。あ。く。く。子。と。來。ね。て。綁。と。被。れ。國。勝。答。て。

云。汝。將。大。小。差。へ。り。高。代。の。上。自。味。く。ま。し。ま。れ。由。名。奸。臣。控。と。搦。て。小。人。と。を。免。罪。子。と。退。け。擅。小。天。下。の。生。灵。と。傷。ふ。是。小。倣。て。宋。公。明。許。多。の。豪。傑。と。梁山。泊。不。聚。め。各。天。小。怒。り。乃。と。行。ふ。宋。公。明。久。く。是。下。あ。人。の。信。懐。と。慕。ひ。刺。来。と。怒。り。あ。は。れ。と。山。陣。に。待。ま。る。若。宋。公。明。と。弄。む。ず。ん。べ。速。小。智。と。お。交。單。魏。あ。は。れ。大。小。怒。り。汝。何。ぞ。我。軍。と。辱。る。や。と。一。度。小。軍。衆。と。卷。て。高。先。小。馳。む。あ。軍。紛。く。と。乳。れ。て。我。已。に。殺。刻。に。あ。り。し。う。せ。單。魏。あ。は。れ。一。点。も。懼。り。及。た。く。精。神。益。盛。ん。う。て。勇。氣。法。軍。に。勝。れ。り。う。も。乳。に。宣。贊。郝。思。文。齊。と。て。飛。せ。と。咆。々。列。單。魏。あ。は。れ。と。迎。へ。各。將。と。合。せ。互。小。功。と。争。ひ。名。と。稱。し。一。某。一。往。秘。州。と。そ。一。お。勵。を。我。已。に。二十。餘。命。ふ。あ。り。一。乳。單。魏。あ。は。れ。一。日。小。と。勅。へ。て。中。路。不。到。回。を。郝。思。文。宣。贊。於。後。と。慕。



黒旋風
喪門神
囚車と奪て
不圖宜郝
二將と救る



李逵自ら陷車を突てその内を看こらしめた。宣賢郝思文并めらるるに
 李逵大に驚て友人と救ひ申し我軍の只別の囚人なりんと思ひ
 是下友人と救ひしと。莫太の幸と欣躍に郝思文又李逵が比に
 小を斬ひて同られ。李逵は時宋公明を責られて。其後暗に山跡を
 馳り。李逵小舟で先韓伯童と殺し。其後又焦挺と遇て共に以
 知に知りし。姑孫具に知りて鮑旭焦挺と逢て宣賢郝思文
 遇し。皆皆怒ぶと限り。郝思文又鮑旭焦挺と對して云らる。ハ
 是下友人孫梁山泊不入。宋公明に陸路に力とる。が先山
 の子勢引て凌州に馳り。心と目どり力と保て凌州を攻み。んこと
 是第一の上計なり。鮑旭が云我も今李公と助を強し。らた。是下の
 云我軍が好まとお目。我は山跡も強ては二百止のり七八百人の云

のり急ぎ是を破し。赤き。し。所日入人の大に遂に軍を破して。
 凌州へとを奪ひ。彼二三百の友軍を。二つの陷車と奪れ。右往左往不
 逃散て。追くに凌州城に馳り。中途に強盗ら小陷車と奪られ
 たる。よ。強太も善に單魏。あ。小告られ。あ。つて。大。怒り。
 其再び。活。高。放。て。之。斬。罪。す。各。牙。咬。と。す。
 残。を。り。城。介。小。や。同。務。者。来。て。再。之。戦。と。挑。む。單。廷。珪。これ。と
 んて。一。子。の。軍。を。率。一。破。て。城。介。小。出。て。笑。務。と。罵。り。り。の。汝。恥。と
 知。ら。る。放。於。い。ん。ぞ。又。来。て。死。と。あ。る。笑。勝。これ。と。受。て。大。小。怒。り。も。ふ
 其。龍。刀。を。舞。一。破。て。萬。軍。廷。珪。も。る。と。確。せ。陰。と。挑。て。お。迎。へ。我。己。に
 二十。符。合。に。及。一。組。に。笑。務。と。勒。へ。て。慌。て。此。に。逃。走。る。單。廷。珪。後。に
 従。て。追。然。も。や。十。符。里。む。り。の。物。と。走。り。て。人。を。さ。組。ふ。り。し。時。笑。務。又

大不咄り罵て云。汝今も下して降系せずんば。性命を害せしめん。おれは
 降て死せ脱れよ。單廷珪益怒り。鎗と挑て。搦菟の突務に於て平
 生の神威と振ひ刀の背とめて。只一歩おと歩らる。了得の單廷珪遂に
 おれ。より下し落ふり。突務もお續てると跳り。於て單廷珪と投
 起して。お軍免し。大と罪と謝し。られ。單廷珪も感激し。地上に
 跪て降系と亦り。突務が云。宋公明の命おと。只一人の武
 勇何吹嘘し。よりし。宋公明刺系と跪て。おお二人と山陣に邀
 らる。大義お衆人と欲。毛改も足り。二人と殺害する。一。孤心
 と傾け。宋公明に。降し。一。單廷珪が云。系系。不。お。り。といへ。其
 く。大。の。力。と。施。し。向。く。天。小。智。と。道。と。行。ふ。一。突。務。これ。と。夢。と。斜
 る。お。後。收。び。毒。び。ると。並。べ。て。陳。前。に。出。し。一。林。冲。お。迎。て。其。故。と。官。ら。る。に。

突務ハ戦の贏輸と行。只善て云。我今人より。お。於。る。多く。旧情を
 叙。遂。に。單。お。軍。と。休。て。親。方。に。降。し。め。ね。林。冲。是。と。夢。と。大。小。收。び。先
 陳。中。小。伴。ひ。り。扱。凌。州。の。云。其。ハ。城。中。に。逃。回。て。單。廷。珪。が。敵。に。降。系。し。
 して。強。を。も。亦。に。魏。定。國。に。告。り。れ。ば。魏。定。國。大。小。怒。り。翌。日。人。を。引。て
 城。外。に。出。し。三。軍。喊。の。聲。と。揚。て。挑。と。挑。り。り。は。時。單。廷。珪。ハ。突。務。林。冲。と
 陳。前。に。出。し。魏。定。國。これ。と。見。て。為。先。に。跑。出。單。廷。珪。と。投。う。り
 大。小。罵。て。云。汝。恩。と。忘。れ。を。小。背。き。天。罰。怎。う。脱。れ。ん。や。突。務。これ。を。夢。と
 怒。り。を。飛。せ。破。て。お。お。已。に。鎗。と。交。へ。て。戦。い。ま。ご。十。合。に。及。ぶ。る。に。
 魏。定。國。本。陳。と。を。で。逃。走。る。突。務。急。に。追。蒐。ん。と。せ。し。單。廷。珪。も。驚
 に。呼。て。突。お。軍。返。り。へ。り。と。云。れ。ば。突。務。は。と。て。引。返。人。と。思。ふ
 附。着。凌。州。の。陳。中。より。百。の。火。を。引。皆。火。を。持。て。陳。外。に。馳。出。し。十。枝。の

火車に蘆葦と積硫黃硝石の火薬を以て一度小火を著し、火を
 猛火と飛せ、敵軍と燒拂ふ。夏侯惇が人を得にん、勇も火攻不
 破らに、面八方に奔走す。魏定國退歩す。十里を望み、再び軍を
 と收め、慢くと引回し、城下小迫づさる。城中小火起り、煙一天
 と差し、抑是ハ急旋風李逵、焦挺、鮑旭等と引て軍を棄し、凌
 州の背後に推きて、城の巾と歩破り、遂に城内小入れ入て、四方に火を
 放ち、魏定國は光景を見て、敵軍を城を棄れ、と料知わへて、城
 中小入れ、又引回し、る。城に夏侯三軍を棄して、散ぐに追撃し、
 友軍をせよと措け、及ぼして、敵多付れ、這く中陵縣に、出て人をも
 り、夏侯と引て、縣を、く、圍之。三軍に号令と傳へて、昼夜際く
 攻む。魏定國は城戸を、て、再び出戦し、さ、り、り。單廷珪又夏侯

林冲に對して、云々ハ魏定國ハ、一勇の、夫を、ふ、り、て、差、緊、く、城
 と攻め、殺ひ死すも、降系ハ、殺れ、ま、殺、く、は、宋、城、中、小、入、れ、言、と、そ
 一、理、を、究、て、彼、と、休、め、子、逃、引、て、親、方、に、降、れ、べ、し、抑、ハ、宋、敗、敗、の、を、
 に、意、ず、と、い、ひ、干、戈、の、残、ひ、と、止、て、人、を、の、息、と、も、殺、れ、べ、し、夏侯、は、云、を、
 受、て、大、怒、し、刺、單、廷、珪、と、城、内、に、入、り、り、單、廷、珪、已、に、城、内、小、入、れ、ら、
 魏定國自ら、迎て、來、意、同、る、に、單、廷、珪、言、と、辱、し、て、云、り、ハ、今、朝
 廷、明、る、べ、し、て、天、下、大、亂、し、奸、臣、持、と、握、り、佞、人、威、と、據、ひ、忠、臣、
 後、と、殺、し、賢、者、志、と、失、し、我、等、先、宋、公、明、不、死、て、景、山、泊、に、突、籠、り、久
 一、り、して、後、奸、臣、朝、廷、と、屏、け、ら、ま、ん、時、節、あ、ら、れ、ば、幸、刺、再、び、出、て、射
 と、去、正、に、敵、て、大功、と、天子、に、辱、す、べ、し、足、下、得、て、自、ら、差、ひ、や、り、ま、う、れ、
 魏定國、是、と、受、て、良久、し、沈、吟、し、己、に、か、く、の、こ、ろ、人、ハ、夏侯、自、ら、來

て我を待て我肯て降るべし。若くは死すとも敵と成て降る
 まぐと句を放てやる。單廷珪再び城介小切て陳中不能り。魏定国が
 云一と洋に送りられ。関務が云大丈夫の傲も何の疑うらん。我今
 單廷珪と共に城中に入べし。已に儀定し。よりり。林冲これを
 待て。人か系付り。され。於之思と加へて。事と行ひ。内。関務
 が云英雄と。ん老の作人。毫髪も妨み。林冲必以んと。安ん
 ぬ。と。遂に單廷珪と引て城中に入。魏定国これと迎へ。大に悦び。
 別。関務。答。後。一。旧情と暗り。互に睦。ド。さ。と。兄弟の如。魏定国
 於て城中の人。ると。信。一。て。関務。にお。降。ひ。衆。皆。城。中。と。歩。出。関。務。が。卒。降。
 小。引。り。る。ふ。林。冲。揚。志。果。に。後。既。外。齊。一。一。迎。て。各。相。見。し。收。び。む。
 後。一。日。関。務。林。冲。所。刻。三。軍。と。起。一。て。陳。と。拂。ひ。一。度。に。唾。と。凱。哥。

と唱へて梁山泊へ引回も。これに又神行太保戴宗。宋江が命と立て。李達
 と尋ひ。おちり。凌州。に。入。て。李。達。に。遇。ひ。宋。公。明。の。源。く。憂。る。と。李。達。に。若。
 片。時。も。お。く。回。る。べ。し。と。遂。小。引。て。梁。山。泊。に。馳。り。り。関。務。が。軍。を。ハ
 ら。や。金。沙。灘。の。辺。に。お。り。り。る。知。不。金。毛。大。段。系。任。慌。忙。に。跑。馬。る。林。冲
 怖。て。同。り。る。を。汝。を。向。に。揚。林。石。勇。も。各。逃。散。て。去。り。向。知。不。系。連
 何。れ。初。慌。く。回。り。ぬ。る。や。段。系。任。答。て。系。不。之。人。小。辺。に。馳。好。る。其。二。百。餘
 人。實。多。て。凌。州。の。地。小。辺。に。如。に。一。族。の。強。盜。起。て。る。と。李。達。と。尋。ひ。お。
 以。率。て。魯。州。市。に。献。じ。る。揚。林。石。勇。も。各。逃。散。て。去。り。向。知。不。系。連
 兼。小。龍。回。て。先。に。こ。と。告。知。せ。を。し。た。急。に。人。數。を。差。向。る。と。李。達。と。尋。ひ。お。
 ぬ。可。る。と。ん。や。関。務。が。云。一。先。山。疎。小。回。て。宋。公。明。に。附。へ。去。後。以。事。を
 儀。不。之。と。衆。皆。金。沙。灘。と。渡。て。右。義。堂。の。前。に。お。り。し。た。宋。江。自。ら。切。て

單廷珪。魏定國を從て堂上に坐り。大小の旗各相見し。一孔穿りし如に。風旋風。李達も以時山陣小回り。焦挺。鮑旭と引て宋江に見返し。中途に於て韓伯龍と殺し。さるる。焦挺。鮑旭と引て。凌州の背口を伺ひ。宣贊。郝思文。囚車と奪ひ。凌州を攻破り。幸。一。若らば。宋江の病ぶ。斜る。三軍と。奪り。向ふも。曾。奪れ。始終。細小。指し。宋江。これと。夢て。大小。怒り。向ふも。曾。市の。夜。我。手。不入。盗の。る。剽。晁。天王。と。射。以。仇。深。骨。髓。不。徹。近。これ。と。報。ん。思。ら。れ。彼。又。は。度。る。と。奪。取。り。以。寬。在。不。之。後。に。是。し。が。也。一。刻。も。あ。く。推。ま。て。一。く。捆。丸。晁。天王。の。仇。と。報。ひ。山。陣。の。恥。と。も。く。と。身。と。躍。り。怒。り。り。る。

○ 宋公明夜曾取市とす

此時兵用が云。幸ひ今暖まの時。前なる人。も。中。の。往。來。不。若。し。ま。は。ん。我。と。る。兵。小。扱。て。う。前。遭。の。軍。に。親。方。輸。ら。る。比。の。利。と。夫。ひ。一。由。急。り。今。次。は。必。ま。智。と。ひ。て。急。べ。宋。江。が。云。曾。取。市。の。仇。一。山。の。徳。也。各。補。る。而。る。れ。別。し。て。智。勇。と。す。一。彼。史。文。恭。と。活。捉。て。晁。天王。の。天。弟。不。供。へ。兵。用。が。云。時。迂。の。系。東。麓。と。飛。壁。と。走。る。の。遊。人。を。れ。先。彼。を。曾。取。市。に。せ。し。消。息。と。探。聴。し。め。後。計。と。強。定。ま。し。と。そ。後。に。時。迂。と。呼。で。妻。一。く。命。じ。ら。れ。時。迂。命。と。身。つ。て。晁。巴。に。山。陣。と。り。り。第。三。日。の。午。の。下。刻。楊。林。不。勇。も。日。く。山。陣。小。回。り。史。文。恭。が。大。言。を。吐。出。し。山。陣。と。羞。辱。り。と。と。彼。細。に。若。ら。れ。宋。江。怒。り。に。堪。び。し。と。も。や。三。軍。と。記。し。し。と。識。し。ら。れ。兵。勇。再。三。と。練。め。て。云。時。迂。近。日。向。ふ。ら。れ。消。息。と。傳。入。る。と。起。り。し。先。替。り。怒。り。と。息。入。る。宋。江。に。



法華寺
良馬を
養ふ



恭とせし擒ハ必ぞ晁天王が遣ふ小頭山陳のまゝと盧俊義も懐人。孫と
 大勢の豪傑の内は和しうたてても出来んとおぼれて。又宋江が大ま
 盧俊義先疎せんと言と幸ひ史文恭と付しめ。山陳のまゝとしめんとの
 志るれば。深く收びるゝ。相盧俊義ハ燕喜と引て。五百の歩卒と飲し即日
 山と下て平川の方小馳り。兵用又人ると。又後にかてを奪せしむ。せん方
 既市正南の方の大陣へ。秦明。花榮と大ねし。麟。鄧飛と副將と
 して。総て三子のまゝと攻し。先向く正東の方の大陣へ。魯智深。武行者
 と大ねし。孔明。孔亮と副將し。是又三子のまゝと攻し。向く
 正北の方の大陣へ。楊志。史進と大ねし。揚志。陳達と副將し。是又
 三子のまゝと攻し。向く正西の方の大陣へ。朱全。雷横と大ねし。鄒
 淵。鄒潤と副將し。是亦三子のまゝと攻し。向く正中の総本陣へ

宋江。兵用。公孫孫。大ねし。呂方。郭盛。解珍。解空。戴宗。時迁。小副將と
 して。三子のまゝと攻し。是後軍と當り。歩軍の既小ハ。李達。樊瑞と
 大ねし。項充。李衮と副將し。三子のまゝと引て。を奪し。孫の既小ハ
 各山泊小首と居し。山陳と申す。以時宋江又後のまゝと起し。て
 山陳と下り。垂ちの既市と申す。推考。以事。も。既市。小頭。及。首
 長。友。既。史文恭。蘊定と信て。軍情の事。事。後。一。史文恭。が。玄
 梁。山。泊。の。ま。織。本。と。捉。へ。ん。多。多。陷。坑。と。没。け。は。是。別。上。計。を。行。ふ。事。
 史文恭。可。と。目。し。子。速。軍。卒。小。令。村。口。の。辺。數。十。里。而。以。陷。坑。と。掘。
 め。着。干。の。ま。と。伏。せ。し。款。の。面。を。得。候。り。宋江。が。山。陳。と。下。り。時。兵。用。時
 遷。と。着。既。市。に。對。し。勁。靜。と。伺。せ。り。に。數。日。の。内。に。馳。回。て。陷。坑。の。ま。と。使
 細。に。告。り。ん。兵。用。大。小。候。て。云。見。ら。の。計。候。を。奇。と。す。の。見。ん。や。と。て。遂。に

三軍と僭倣して名を借りて。或は市の辺にありたり。日午の刻。小
 やうに披掛する。敵一隊。跑より宋に。が前軍のまきと歩通りし。依れはを
 見て。付えんと強。し。如に。兵用制。して。い。何ぞ。必。一。騎の。敵に。目。と
 然んや。先。彼と。追。ず。は。辺に。陣。と。え。は。と。三。軍。小。令。と。傳。人。安。官。の。地
 小。陣。と。列。ね。は。面。に。濠。と。掘。め。て。如。く。に。柵。と。設。け。依。れ。各。營。本。に。あ。り。
 已に。三。日。と。る。一。る。如。に。兵。用。又。時。近。と。敵。の。士。率。に。出。立。せ。各。攻。市。小。令。
 敵。の。出。さ。る。若。兵。に。陷。坑。の。有。一。く。是。と。探。聴。せ。り。り。に。時。近。已。に。敵。の。陣。中
 に。紛。入。て。一。日。の。内。小。委。細。と。窺。ひ。知。陷。坑。の。有。一。く。暗。に。記。號。遂。に。立。回。て。
 兵。用。小。形。と。告。一。く。兵。用。具。を。さ。る。と。曉。し。翌。日。一。百。枝。の。車。に。芦。葦。張。
 装。載。し。中。軍。の。内。に。花。一。く。を。裝。又。依。れ。に。號。令。と。傳。へ。明日。已。の。刻。に
 敵。陣。と。攻。む。と。約。し。又。小。陣。と。攻。む。大。に。揚。志。史。を。一。く。只。人。を。と。傳。し。て。

敵陣と攻むと虚々一喊の聲と作せ。敵軍と驚かせ。相。史。文。恭。は。宋。に
 と。引。て。陣。と。攻。む。を。陷。坑。へ。逃。入。大。功。と。建。ん。と。驚。り。居。る。如。に。翌。日。已。の。上。刻。に
 忽ち。砲。の。聲。陣。前。小。軍。と。敵。の。大。軍。南。門。小。令。來。る。又。東。陣。の。方。に。一。人。の
 和。尚。一。人。の。行。末。後。方。り。攻。來。ぬ。と。史。文。恭。小。若。に。れ。史。文。恭。是。と。傳。を。受。
 人。の。必。也。魯。智。深。我。行。末。方。り。ん。け。後。傍。の。勇。力。の。譽。を。死。別。の。名。を。得。る。
 宋。の。敵。に。あ。は。れ。と。制。と。分。て。勇。魁。と。脚。け。解。く。東。陣。と。防。せ。り。又。西
 陣。の。方。に。一。人。の。大。將。攻。來。り。旗。号。の。上。に。吳。韓。公。朱。全。挿。翅。虎。雷。撲。と。書。付
 其。勢。甚。と。猛。と。執。り。れ。史。文。恭。これ。と。傳。て。又。史。文。恭。と。分。け。勇。索。と。脚。け。り。
 本。陣。の。前。方。に。砲。の。聲。一。向。署。と。史。文。恭。と。分。け。勇。索。と。脚。け。り。
 宋。江。が。攻。入。と。待。て。陷。坑。の。内。に。逃。落。さん。と。告。り。り。梁。山。泊。の。軍。師。吳。
 學。究。の。山。の。背。後。に。と。廻。し。一。か。海。より。攻。り。れ。敵。の。伏。勢。に。於。陣。前。に

花榮これをもて友將が懐へさしと科り知りあふると飛せ跑出り箭
步搭波月の下く拽緊帯一帯で漂と放らるるふそ集さるる湯がた
の傍に中しるふ湯冷勿ちるより下にま倒に落後小呂方郭盛ふ殺
されり軍士甚是と見て陳中に馳回り弟長官并に史文恭ふ初と若
られば弟長官これを見て流涙一瞥く昏くしと前後不足の弊
小呂方らぬに全身弟長官大怒り我弟兄の爲ふ仇と報せん誓て再
び回るまじと牙咬とみ。已に跑出んとしとけふ史文恭これと陳を將
軍控くしと戦ひてまうれ宋江が軍中より智勇の猛お極て後し系
をみてこれとあふれ先軍一く又の陳と張虎にちり暗ふ人と凌州に
あへり。胡廷小養使さるるめ多く友軍と乞ふめあふより征伐し。友軍
らぬ梁山泊とあへり。我々は魯政市とちり。一統必む自く屈し。

引退んとすべけれがま時あふる軍ら兄弟と共。三軍を奔して退付
せん小いざう大功とゆざうんと理とそして云々に副教師蘊定も社
小月とて云梁山泊の軍師兵用の孫多さなるれば軽しく款一がし
先友軍のゆると待て別に計せ施さば必定滅と破ると易うせん。あ今
急に歩んとせば却て親方に接多るべし。弟長官を史文大に喝ちり。眼
弟に兄とあせは弟仇と報せに何れの時とゆらん。一向延引に及ぶ
滅いよく系力を養て再び付んと強くぞしとてあ人の徳と容ざりぬ。
友教師にこれと憂へて再び陳をせ加へられども。弟長官まひて耳も
穿入に僅十騎と引て陳介小龍も大者怒り叱つて。我を挑まはる小宋
江軍に下知して戦いしめ。秦明歩あんとせしに。黒旋風李逵ふく
も斧と搦し。陳介に逃出梁山泊の豪傑黒旋風李逵なるぞ。曾昇

迷小出て。雌雄と交せよと叫りしれを。若昇大不怒り急に弓箭把て赤
搭へ能搜て漂し放ちりる小。若昇差へば李達が腿の上の中りし。了得の
勇士軍旋回も終日地上に倒れりり。若昇が軍士これとて。我々も
と先と争ひ跑出しぬに。宋江が陣中より秦明花榮齊一と跑出て。欒
と巡拂ひし。鄧飛呂方郭盛一同に馳來り李達と助け陣
に回りりる。若昇八款の多勢なるを見て敢て再び残れ。且李達と射るを
勝利とて。陣中に引えられ。宋江が云も本陣不列回しり。翌日史文
恭。換定曾昇と休て。残ひと休めし。んとせし。若昇若くは。と引
是非急に兄の仇と報んと。彼段系復が子より奪れし。千里玉獅
子と云ぬる小。若昇高先跑て陣前小むらば。史文恭も已と。後
後より突て。彰りに鼓をあそ。攻める。宋江が陣より。霹靂火秦明一巻小

素出。浪牙棒を舞して。史文恭におてくる。史文恭徐と批てお迎へ。各
各勇と奮て。我已に二十符合小。しぬに。秦明が力疲れ。逃回。史文
恭勇と奮て。追りけ。陰と死延て。秦明が腿の上と刺られ。秦明も
も。呂方郭盛。鄧飛。呂方。郭盛。一同に突出て。秦明と救ひし。若
若。宋江が引えりる。宋江が先。秦明と車小載て。梁山泊小送り。且又
兵用と高強して。大刀突。孫金。徐寧。聖水。單廷珪。卞大將
魏定國。何と。梁山泊より。呼下し。我ひと助けし。若。大不可。及とて。
我ひと。若。宋江が又。自。若。若。天。地。若。若。
度。の。軍。に。勝。利。と。ぬ。て。晁。蓋。の。仇。と。報。い。し。め。な。へ。と。若。若。若。若。
折。り。割。り。し。て。一。簣。を。ぬ。り。し。る。に。兵。用。義。の。面。と。見。て。宋。江。小。若。若。若。
代。為。政。市。の。必。ず。破。り。れ。せ。今。宵。先。賊。を。來。て。陣。と。劫。ん。と。す。る。凶。叢

面に表れり。宋は已にわくのどくは頼む。頼むは後け可なりんや。兵用が
云来已に計あり。宋君先公とあんトカんとて。不速号令を傳へ。三陣の
既飲小比事と告あり。解松解室に計と授け。陳の右小をいぬ。其
竹の人るは。くは方に休むり。扱史文恭は。魯既市の陳中に在
て。魯昇小對し。云る。ハ。賊を今日の我小。赤輪。必怖し。てを。以虚
小系て。今魯陳と劫を。必大功成ぬ。魯昇。皆て。を。綴小。肢。列時
彼。獲定。魯密。曾索。ホ。と。傳て。夜付の。と。告。知。せ。以。夜。二。更。の。右。側
小。各。人。を。引。て。宋。の。陳。内。に。礼。れ。入。て。下。と。云。小。只。一。人。の。云。も。わ
さ。り。し。魯。皆。大。不。覺。と。云。魯。小。身。を。圍。し。て。馳。出。ん。と。せ。知。よ。た。の。方。より
ハ。右。蛇。解。松。斬。て。右。の。方。より。ハ。双。尾。蝎。解。室。斬。て。右。背。後。より。ハ。小。李
廣。花。榮。を。引。て。追。ふ。曾。索。ハ。一。程。許。敵。れ。て。追。り。以。に。解。松。已。に

追。着。て。魯。より。下。に。擲。落。し。り。以。時。五。軍。終。く。と。礼。れ。て。攻。城。の。魯。歌
市の。云。へ。多。く。討。れ。て。八。面。に。放。を。以。史。文。恭。剛。く。一。つ。の。血。為。と。殺。害。を。這
く。卒。陳。に。圍。り。り。魯。密。官。ハ。又。曾。索。と。付。せ。悲。い。よ。く。源。より。史。文
恭。に。放。る。ま。と。拂。を。以。解。松。と。ハ。魯。と。魯。と。馳。り。我。先。書。簡
と。以。て。宋。に。告。を。と。退。ん。と。て。不。速。号。令。を。傳。へ。魯。日。使。と。魯。り。く。是
と。宋。に。小。書。簡。を。披。き。讀。み。言。ふ。い。ち。く
魯。頭。市。主。曾。弄。頓。首。再。拜。宋。公。明。統。軍。頭。領。麾。下
日。昨。小。男。倚。仗。一。時。之。勇。誤。有。冒。犯。虎。威。向。日。天。王
率。衆。到。來。理。合。就。當。飯。附。柰。何。無。端。部。卒。施。放。冷。箭。
更。兼。奪。馬。之。罪。雖。百。口。何。辭。原。之。實。非。本。意。今。頑。丈
已。亡。遺。使。講。和。如。蒙。罷。戰。休。兵。將。原。奪。馬。足。盡。數。納



義俊よしのぶ盧
 史文恭を捉とら

卷中三景
 病床一画



還更賚金帛犒勞三軍此非虛情免致兩傷謹此奉
書伏乞照察

宋の書笈を見て大に怒り列を遣はし遣りて罵りたりハ汝我見天王と題
寛骨體不徹り以豈肯て和睦とせんや我汝が村中と斬りし人殺と
級しまた寛と略すしとと牙と嚙齒と切つて忿怒まじりりられハ使
者以先系と見て揮ひ標さる。兵用再三宋にと係て云宋君何ぞぞぞ
傍りやや豈一時の忿不大義と失ひぬらんやとて遂不反勞と傍へ使去
小ふへられハ使去返勞とゆて大に怒りて返ぬて史文恭不望りりる
に史文恭列是と披さるる其書不曰

梁山泊主將宋江手書回復曾頭市主曾弄帳前國
以信而治天下將以勇而鎮外邦人無禮而何為財

非義而不取梁山泊與曾頭市自來無讐各守邊界
奈緣爾將行一時之惡惹數載之冤若要講和使頭
發還二次原奪馬足并奪馬兇徒郁保四犒賞軍士
金帛忠誠既篤禮數休輕若或更變別有定奪草々
具陳情照不宣

曾長友史文恭共に及簡と看了。已に以の如くんハ互人質と云
習すべしと激定して翌日又使と宋江が陳中に弛ては事と云り
宋江旁て兼引せりしハ兵刃練て云何の大事とめらん。宋君御憂
何小くおんれとて列時近李逵。樊瑞項充李哀ホ人を選出して質と
計と時近に云舎敷り。又又関務徐寧單廷珪魏定ふハ宋江が
殘不意ト山陳とり。日宋江が本陳不意て各對面しり。

○盧俊義史文恭と活捉

去不どに時迂欲地不到て云らるの我も又人の志守将宋公明の号令を奉じ人質として系うる間宜しく和睦の後と潤へる史文恭が云吳用と下ホと驚く必死詐の計みどしといまも早うぞらに李達は是と波て大不怒り雷の如く吼て史文恭におて蒐る若友慌忙李達と密め先怒りあふてさうれと云らるぬに時迂がいも李達の系意性の人となりといき宋公明も電電に後小彼とみて人質小出さる上は若友必ず疑心せしめあふてさうれ若友は只和睦の事と潤んと欲りゆる若て史文恭が詞と密に速入人の志と懇小餐食し法善寺の陳に驚くそちりして又百餘人の軍士と備陳の口面と圍せり若友又若昇郁保は友人と人質として彼奪えしる若そく宋江が陳中に還

れば宋江一と是と改めりる小向小段系統が執せんといふ千星玉獅子と云る見えざりしを宋江別ち若昇小同て云子星玉獅子は何れ率せざる若昇若て云彼名る小向小段系統が子より奪取しとも史文恭再之不辱せし小より遂小彼小与一ゆえの門ては後けるを率せゆ宋江が云已に後へ人史文恭が方に馳て妻細に云驚りりぬに史文恭が云別のそ大毛頭も若うとぞれを以玉獅子小於ては變して還すまどと返着しる小若若昇又彼と馳史文恭へ中驚りるは是下愚父と儀し宋公明へ書若と送て和義と求め忽ち若書若の文小背さ自若和義の彼をんとて好むは何の心ぞや原奪しる是教として還納せよといふ書若の表へ復べうとばと欺りに求め使志の往來を又六遍小及び一時史文恭が云らる

孫付玉獅子と頼んとるゝ先を退け此れは我けりて送るべしと延着
以宋江を捉て軍用と共小隊儀匿くかりし如に勿ち飛脚到來し
喜州凌州表の軍を來ると報じられ宋江を捉て密に号令を
傳へ國務軍定陸魏定國は二人と馳て喜州の人を迎らし又暗に
郁保正を呼出し再三懇に極論して云々我今汝に計を授け親
方の為不利んと欲は汝が肯て以功を建ば汝を山陣に置け日之改服を
做しむべし汝向ふると奪し仇を我乃築と折て誓ひし今も是れ免
すし喜州市の滅亡は旦夕ありぬよと思へ加へて山陣に誘へんや
郁保正は云と捉て大に怪ひ宋君の我罪を免しぬる我死と誓ひ
公恩を報せしと傳へ附しられぬ兵刑計を計せ郁保正は交換せ
ぬ今汝と逃出する事ありは喜州市を回り別史文恭に告ぐべし

宋公明は夜和賸の候と兼元一は只かの名を告ぐ頼人が為へ
名をふたれ復さば必然遠き處を尋ねし今喜州凌州支玉の人
馬を來ると注を西し宋江を驚さる小隊は勢ひ小隊にて
計を仍ひありゆし大功成ぬべしと彼を誅す彼り果して
以云小従り我又別計ありと妻細に云食らぬぞ郁保正計を
て曾取市を回り先史文恭小見えて一と云し今に誘りらるに
史文恭は捉て密に沈吟し遂に郁保正を引て喜州を小見え
宋江は和賸は終末小ありする方々を尋ねし彼が宋江を郊に
立札に誘ひ誘ふと西し喜州を來る我俾喜州人質として彼が
陣中に在り今遠き處を尋ねし喜州に殺さるべし豈よく此事を行
んや史文恭は云彼が沈黙にみちて喜州を來る喜州の間に陳を

彼て曾昇將軍とも容易救ひ出すべし。尤も憂ひなふことなれ。宋江が
 陳が破れむば、曾の陳を自ら破れいん。又彼李逵も又人の志を
 傷陳の刻えんと殺まへ。魯長友が云已に此の如くんば、敵陣必ず良
 計を施して、大功を立むとて、於て號令を傳へ、小陳の獲定、宋陣の
 曾魁、南陳の首密、於て一月に馳て、敵陣を却ふべしと、約し、魯保に
 は法善寺に於て、李逵も又人の志を窺ひ、晝不時、迂て、計を返す
 り。扱宋江の計の次第を、兵用に問らる。小、兵用が云、魯保に、問らる。史
 文恭、我計に中らに疑ひなく。彼系と、青來て、我陣を却ば、我云は
 皆、友に、埋伏し。又魯智深、武行者、友人、小、歩軍と、与へて、彼が
 西陳と、歩せ、揚志、史を、小、兵軍と、与へて、彼が、小、陳と、おし、む、じ、け、別
 番、大、伏、窩の、計と、やて、百、と、び、奔、して、百、と、び、中、る、上、計、と、て、已、に

用、え、と、烟、へ、り、り。以、夜、史、文、恭、ハ、獲、定、首、密、曾、魁、ホ、と、ら、ひ、人、を、引、て
 赤、て、出、る、ハ、史、文、恭、獲、定、あり。後、は、曾、密、首、魁、の、り、各、陣、ひ、小、陳、に
 て、馳、來、り、車、に、宋、江、が、本、陣、に、む、て、窺、ひ、ら、る。陳、門、突、き、入、り、て、陳、中、小
 人、の、り、に、對、史、文、恭、を、斃、り、し、う、げ。史、文、恭、大、に、驚、き、我、誤、て、敵、の
 計、小、陷、ら、り、と、急、に、引、退、ん、と、せ、小、魯、保、市、の、内、に、濫、と、噴、し、
 鼓、と、播、強、勅、を、さ、り、ら、り、し、く。史、文、恭、が、云、た、ハ、先、勇、氣、を、折、て、膽、れ
 り。以、時、時、迂、ハ、法、善、寺、鐘、樓、小、上、て、魯、保、に、通、し、ら、る、と、て、お、
 出、の、鐘、と、撞、立、せ、た。宋、江、の、友、人、小、陳、の、聲、大、い、小、魯、保、さ、大、勢、一、夜
 に、陳、中、に、斬、て、入、李、逵、樊、瑞、項、元、李、哀、ホ、ハ、法、善、寺、の、内、より、斬、て
 出、宋、江、の、喊、の、聲、ハ、天、地、も、崩、れ、斗、と、魯、長、友、ハ、陳、中、に、立、て、是、と
 防、ん、と、せ、う、た。敵、火、急、小、攻、入、し、く。我、ん、や、う、と、く、遂、に、自、殺、し、て、死

小なり。骨密ハ石陳の方に馳るに。朱全不殺を。骨魁ハ東陳を。骨
 不。跑るりし。歌の大勢に引包れ。雜々不付れり。獲定ハ北陳の前不
 死。一。知不。曾智深。武。仍。急。小。追。蒐。一。六。又。三。と。回。一。逃。竹。処。不
 楊志。史を。人。る。小。行。合。礼。箭。に。中。て。死。に。以。時。為。取。市。の。人。る。を。に
 以。方。被。方。て。追。付。せ。れ。死。せ。る。者。を。殺。せ。知。く。は。叔。史。文。恭。ハ。千
 里。玉。獅子。と。云。名。る。に。乘。一。六。西。門。と。殺。按。て。二。十。竹。里。逃。る。に。以
 夜。天。色。暗。く。と。して。何。れ。の。知。る。る。も。知。ら。ざ。り。と。史。文。恭。を。勒。へ
 息。と。幾。ん。と。せ。一。知。に。樹。林。の。内。り。鼓。の。聲。大。に。響。て。又。百。竹。の。軍。を
 突。て。出。尚。先。に。を。且。大。に。推。を。卷。て。史。文。恭。が。乘。る。る。の。足。を。む。ぎ。と
 り。ね。た。流。石。の。名。る。り。と。持。と。跳。越。て。跑。る。り。か。ら。る。知。に。怖。る。る。中。に
 一。人。の。大。に。現。れ。出。務。と。揮。り。し。六。史。文。恭。作。天。と。して。一。ん。と。ら。れ。て。一。と。一。と。

晁蓋が。吳。魂。を。り。以。時。史。文。恭。再。び。旧。の。務。を。奪。ね。て。馳。回。り。一。う。た。
 浪。子。燕。を。り。箭。を。搭。へ。て。務。を。け。り。一。六。史。文。恭。急。不。横。乃。へ。跳。ん
 と。せ。一。知。に。盧。俊。義。力。を。盡。し。飛。ぶ。と。馳。來。り。お。く。も。史。文。恭。が
 腰。の。上。と。一。刀。砍。て。る。り。り。小。拖。り。落。し。於。て。高。子。小。子。に。縛。め。
 宋。江。が。陳。に。引。せ。り。れ。ば。於。て。宋。江。是。と。見。て。大。小。慌。び。史。文。恭。を。山
 陳。に。携。て。晁。天。王。の。吳。花。に。借。せ。べ。と。先。踏。車。に。入。る。り。浪。子。燕
 著。の。史。文。恭。が。乘。る。る。名。を。牽。て。中。陣。不。回。り。り。小。法。政。飲。け。る。と
 見。て。各。人。小。撥。絲。以。向。小。段。系。任。け。る。と。宋。江。小。款。一。梁。山。泊。小。販。順
 者。贖。不。せん。と。て。奪。死。と。金。の。王。子。が。乘。一。名。を。照。夜。玉。獅子。一。名
 千里。玉。獅子。と。の。云。段。系。任。が。率。往。守。隘。せ。る。家。の。族。奪。死。教。師。と。る
 及。史。文。恭。不。送。り。し。が。今。務。小。梁。山。泊。の。有。と。る。れ。ば。段。系。任。が。寸。志。柳

而小仇より。借宋江をせ。曾改市に屯して。昇を斬罪。一。そ外
 曾改の一教。そく殊獄。一。翌日。を起して。曾改市をおお。三軍一
 凱歌を唱て。梁山泊へ。ぬりり。以時。笑陽。死榮も。己に。青州。凌州の
 人を。撃退け。於て。山陣へ。ゆり。會集。宋江。號令。せ。傳へ。大小の。旗
 を。右義堂。小招き。蕭娘。に。祭支。せ。傳へ。れ。危。皆。晁蓋。が。吳。不。侯。候。

於て。史文恭。が。改。せ。別。て。これ。を。吳。牌。の。前。に。供。へ。依。改。於。各。物。を。あ。り。て
 祭。り。り。宋。江。又。吳。月。ら。依。豪。傑。と。高。議。し。て。山。陣。の。主。を。盧。員。外。小
 侯。んと。欲。し。り。ぬ。小。吳。月。が。云。宋。若。の。第。一。位。に。在。し。ぬ。ひ。高。負。外。の
 第。二。位。小。坐。せ。し。ぬ。何。ぞ。必。し。も。再。三。讓。り。ぬ。ん。や。宋。江。が。云。晁
 天王。降。降。の。時。誰。あ。り。も。史。文。恭。と。捉。へ。し。ぬ。ん。人。の。山。陣。の。主。を。讓
 べ。し。と。選。ま。り。ぬ。今日。盧。員。外。已。小。史。文。恭。と。捉。へ。て。晁。天。王。の。仇。を

作 辭 中 散 在 人 共 亦 不 能 知 人

教ひ。ぬ。上。の。判。是。山。陣。の。主。之。依。人。必。し。晁。天。王。の。遺。を。せ。ぬ。こと
 あり。れ。と。て。位。を。盧。俊。義。小。侯。んと。せ。し。ぬ。に。盧。俊。義。再。三。辭。し。て
 云。宋。江。は。是。何。等。の。者。な。れ。ぬ。於。て。宋。若。の。座。を。奪。ん。や。遠。末。坐。小。侍。

し。ぬ。ぬ。ぬ。も。宋。江。が。ぬ。ぬ。の。依。び。之。宋。江。が。云。宋。江。今。く。讓。讓。せ。り
 小。の。わ。り。ぬ。れ。ぬ。も。三。つ。の。事。員。外。小。如。比。第。一。の。系。相。貌。醜。し。て。才。拙
 員。外。ハ。是。容。貌。堂々。威。風。凜。々。と。て。笑。人。の。相。あり。第。二。ハ
 系。の。や。小。吏。と。し。て。罪。を。犯。し。ぬ。囚。人。之。然。れ。ち。依。豪。傑。の。電
 構。と。爲。り。て。以。位。小。坐。せ。り。又。員。外。ハ。系。豪。傑。の。子。孫。と。して。宋。江
 の。罪。を。己。向。に。か。し。禍。を。被。り。給。ひ。し。ぬ。天。の。依。小。依。て。其。罪
 と。脱。れ。ぬ。ひ。今。又。毛。从。も。釋。わ。し。ぬ。第。三。ハ。系。支。ハ。邦。を。富。ん。ず。ぬ。と
 然。に。宋。江。の。仇。と。依。り。て。能。は。ぬ。よ。り。是。難。と。傳。る。力。あ。く。ぬ。ぬ。寸。策。の

行 編 水 滸 傳 卷 之 五 十 一

功なり。員外は是の義の義人小歎し。文の右今と窮む。天下の人誰か
その風を慕はざるや。員外已に知る文徳の上の山陣の至とあり。又
他日のお却姓小歎ありて。功を建業と云ふ。友爵継遷し。おふ時の我事
徳政の成も。その福蔭を蒙りて。若光彩をば。我人已に交し。も
に必はる。辭し。おふとあり。盧俊義これとて。地の上小歎依し。
宋君何ぞ。是らの云と云ふや。系能ひ死す。びと小放て。いふ命に
後ふま。びと。交然として。是を辭し。兵用が云。宋君の第一位小坐し
おひて。盧員外は。次小坐し。おひの如く。んべ人皆肯て。服すべし。
若再三お譲り。ぬ。法人離んせ。山陣の大業。一時に廢れ。ん
とて。暗に法人に。賤眼し。し。六星旋風。李達先。躍出て。大を怒
に。鳴り。る。我江州より。一命を。控んと。て。は。知れ。る。を。踏ひ。あり。法人。怒て

位と宋君小譲りぬ。今又一位の坐と他人小譲りぬ。我尚先小歎
て。出立ぬ。山陣と。踏毀し。各退散り。ぬ。我は。ぬ。も。お。後。々
を。と。ぬ。日く。も。怒。小。鳴。て。云。今。宋。君。の。下。小。在。豪。傑。ら。の。是。才。期。延
の。得。祿。と。食。し。友。人。を。た。り。ぬ。い。ん。ど。肯。て。他。人。小。事。へ。い。ち。ん。や。と。あ。ご
云。も。不。ら。ら。ら。に。劉。唐。身。と。奮。て。躍。出。昔。日。我。事。七。人。は。山。に。上。り。王
倫。亡。て。よ。り。後。晁。天。王。と。初。め。し。う。山。陣。の。至。と。宋。君。小。譲。ん。と。欲
し。ぬ。今。日。り。位。と。他。人。小。譲。り。ぬ。所。時。小。獨。生。び。べ。魯。智。深。も
月。く。霧。霰。の。と。く。に。吼。し。云。宋。君。の。う。く。位。と。譲。り。ぬ。も。る。ら。ば。我
今。後。杖。と。揮。て。陣。柵。と。お。碎。さ。法。豪。傑。と。共。に。は。方。に。散。去。べ。し。
ぬ。く。ハ。宋。君。法。人。の。存。念。小。後。ひ。お。ひ。て。無。事。と。個。へ。お。べ。し。と。再。三。殊
云。し。し。ら。し。ぶ。宋。の。是。の。云。と。お。び。て。暫。く。躊。躇。せ。ざ。り。る。が。勿。ち

徳人小對して云々の我々天意に憑て陣を定めん小徳既成矣
 我々云々となつれと。徐々其の衆皆一時小静て其意と侍衆江何と云
 出せや次牙と云々

新編水滸畫傳卷之五拾六年

徳人小對して云々の我々天意に憑て陣を定めん小徳既成矣
 我々云々となつれと。徐々其の衆皆一時小静て其意と侍衆江何と云
 出せや次牙と云々

